

国際開発学会第 22 回春季大会に参加し企画セッションを開催しました（2021/6/12）

テーマ：災害科学、国際開発学・国際協力学、防災投資、共同研究助成
場所：オンライン（Zoom）
URL：<https://www.jasidconference.org/>

6月12日（土）、オンライン（Zoom）で国際開発学会第22回春季大会が開催されました。国際開発学会は、国際開発学・国際協力学に貢献すること等を目的に、分野横断的な研究活動を推進している学会です。

当研究所からは、昨年度から実施している共同研究助成プロジェクト（「治水投資額と被害軽減効果の将来予測における新展開」）に関連して、当該プロジェクトの研究代表者である石渡幹夫（東京大学大学院新領域創成科学研究科・客員教授が座長、当研究所の佐々木大輔助教が企画責任者を務めるセッション（「防災と気候変動適応における投資の促進に向けて」—アジアの視点からのレビュー・事例研究—）において、以下の3篇の報告論文（レジリエンス計画研究分野の井内加奈子准教授、2030国際防災アジェンダオフィスの佐々木大輔助教と坂本壮共同研究員が著者）に係る発表が行われました。発表後、開発研究の専門家から、多くのコメント・質問が寄せられました。

【報告論文】（以下、報告順）

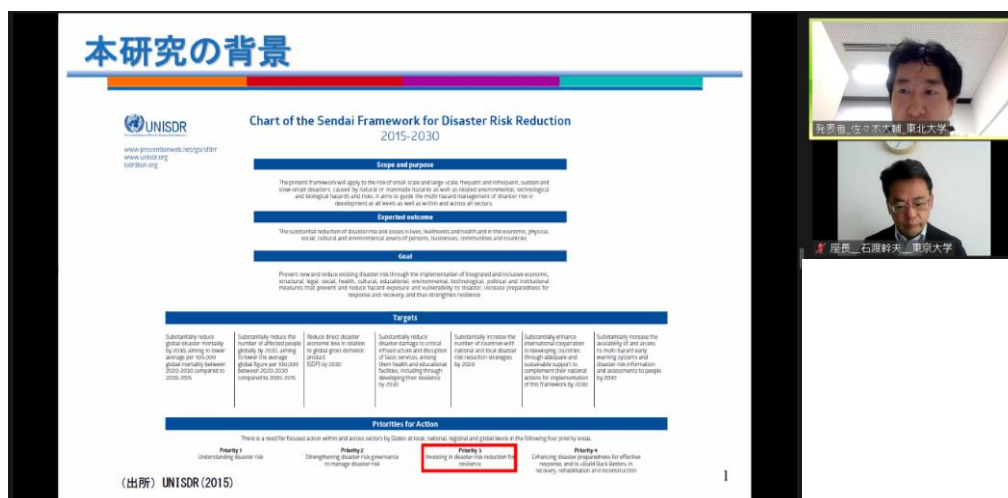
佐々木大輔：防災投資に関する文献レビュー —最近の文献からみた防災投資の現状—

地引泰人、ペルパシ・ディッキー、佐々木大輔、井内加奈子：災害後復興ニーズ評価調査（Post Disaster Needs Assessment: PDNA）が災害リスク削減と気候変動適応対策への投資に重要な意味を持つのか —文献調査にもとづくインドネシアとフィリピンの二国間比較分析—

坂本壮、佐々木大輔、石渡幹夫：日本の治水事業における費用対効果分析手法の変遷と進化 —治水経済調査マニュアル（案）改定過程に着目して—

（下線は当研究所の構成員）

昨今では、国際開発学・国際協力学の立場から災害をテーマとした研究が多く見受けられます。引き続き、仙台防災枠組・持続可能な開発目標（SDGs）・パリ協定等の国際防災アジェンダ、及び防災投資をはじめとした関連するグローバル・イシューについて、国際開発学・国際協力学の観点も交えながら、文理融合の学際研究を積極的に推進していきます。



発表画面の一例（Zoom）

文責：佐々木大輔、坂本壮（2030国際防災アジェンダオフィス）